



明治学院大学 国際学部附属研究所シンポジウム

大学と地域連携を考える地域円卓会議

自然に恵まれた横浜キャンパスを擁する明治学院大学、
学生が地域に関りながら、自然との共生や生物多様性に関する
新たな学びを創出できるのか

実施報告書

日 時： 2025 年 11 月 29 日（土）14:00-17:00（受付開始 13:30-）
場 所： 明治学院大学 横浜キャンパス 5 号館 クララ・ラウンジ
（神奈川県横浜市戸塚区上倉田町 1518）
主 催： 明治学院大学国際学部附属研究所
共 催： まま maioka
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄・NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【 報 告 】 大 学 と 地 域 連 携 を 考 え る 地 域 円 卓 会 議



■日 時：2025年11月29日（土）14:00-17:00

■場 所：明治学院大学 横浜キャンパス 5号館
クララ・ラウンジ

■着席者数：8名（論点提供者、司会、記録者含む）

■参加者数：26名（自営業・会社員・教職員等）

■主 催：明治学院大学国際学部附属研究所

■共 催：まま maioka

■協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供

林 公則（明治学院大学国際学部 教授）

中川 隆義（まま maioka）

自然に恵まれた横浜キャンパスを擁する明治学院大学、学生が地域に関りながら、自然との共生や生物多様性に関する新たな学びを創出できるのか

明治学院大学ではすべての学部の学生が1～2年次に、横浜市戸塚キャンパスで学びます。この地域は舞岡公園周辺をはじめとする里山の自然に触れながら過ごすことのできる環境にあります。今回の円卓会議では、大学と地域や自治体との連携を通して、学生が自然との共生や生物多様性に関する学びを得ながら、地域の担い手にもなり、自治体と大学の連携の新しいモデルになりうるのかという問いを関係者みんなで議論します。

センターメンバー



林 公則
明治学院大学
国際学部 教授



中川 隆義
まま maioka



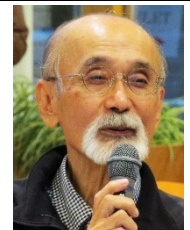
山岸 伶衣
明治学院大学
国際学部 3年



薩摩 藤太
湘南とつかYMCA
館長・上倉田地区
連合会付地域
アドバイザー



関根 伸昭
横浜市
みどり環境局
戦略企画課
戦略企画課長



田中 真次
名瀬谷戸の会
会長・
森林インストラ
クター

明治学院大学 国際学部 付属研究所

ランポデウム

大学と地域連携を考える

円卓会議

自然に恵まれた横浜キャンパス
を擁する明治学院大学、
学生が地域に関わりながら、
自然との共生や生物多様性
に関する新たな学びを創出
できるのか

地域の関わりと
社会と共有共感する
課題を
沖縄式地域円卓会議

(司会)

手良斗星

(模写)

交通手配

(論点提供)

林公則

中川隆義

山岸依衣

薩摩藤太

田中真次

関根伸昭

主催 明治学院大学 国際学部

共催 まま maioka 付属研究所

協力 公益財団法人みらいファンド沖縄

NPO法人まちなか研究所 ゆくゆく

2025.11.29(土) ①

14:00~17:00

②明治学院大学 横浜キャンパス

5号館 クラウドラウンジ

論点提供



林公則 さん

明治学院大学 教員

はじめて
考えた!

明治学院大学が、
横浜キャンパスにおいて、

- ✓ 豊かな自然を擁する
この地域において、
多様な主体と関わり合いながら、
- ✓ この地域ならではの学びを
創出できるのか。

自然との共生
生物多様性
など

横浜キャンパス

白金キャンパス

②

- ✓ すべての1~2年次学生が学ぶ
- ✓ 「戸塚市民公園」の経緯
- ✓ 舞岡公園 — 緑ゆたか
- ✓ エコキャンパス (2009年~)
- 太陽光 / バイオプロダクト / 地産地消
- ✓ 地域との関係と育ちあってきた
- ✓ このキャンパスで学ぶことの意味
- 「示せてこれなかったのでは」
- 環境面 豊かさ 地域から学ぶ
- 人的
- ✓ 学生のボランティア
- ✓ 自然と考えるワークショップ — まま maioka
- ✓ GREEN x EXPO 2027 みすえて

訪ずれることなく
学生多数

可視化し
示していきたい!

中川 隆義 さん

なか がわ たかよし
まよ maio ka

豊田中
出身

舞岡公園で
里山ボランティア

横浜を
つなげる30人

40年、舞岡公園に
入ったことがあった

子の小学校の宿題で
はじめて、田んぼを知った

自宅と消費の③
いただけ、どうも
に気づいた

これまで30年かけて残してくれた貴重な都市自然を
20年後、30年後の次世代に残したい

- ✓ (横浜の)都市自然を次世代につなぐ〈ミッション〉
- ✓ 地域の人たちが身近な家の価値に気づき、関わり合っていく〈ビジョン〉
- ✓ 未来宣言づくりから始める緑の事業承継〈3700-4〉

国際学部 / 環境学原論

2022

舞岡公園
明学生
未来宣言づくり

2024-2025

地域にどう
大学、大学は
地域と?

身近な自然に
関わり、横浜キャンパス
で学ぶ意味を
考える

国際学部

地域活動

横浜市 / 戸塚区

講義

WS

ボウ

円卓会

連携

山岸 伶衣 さん

明学歴
9年目

明治学院大学国際学部 国際学科3年生

中高、自然科学部 (6年)

学生からみるキャンパス

✓ 広い、自習場所、ランチに困らない

✓ 自然、四季と感じられる

✓ 戸塚地域の方との交流

正門まで
歩かなと
感じたい

戸塚駅
から遠い

自分から
こぼれおこ
る、関わり
も必要

学生WS (7・8・9月)

9月の成果

キャンパスを
気軽に
自然活動

地域に
開かれた場
に情報発信

ネットワー
クづくり

食での連携

学生による
活動団体

カーナビ活動
部活動、講義

横浜フェイス
ポリシー

薩摩 藤太 さん

湘南とつかYMCA館長、上倉田地区連合会付
地域3Dバスター

60名 学生ぼう → 地域へ (去年)

学生。気づき

駅 → ぎょうぎよく並んでバスまで、ね

地域の接点がないね

明学生たむろしている場がない

地域からの
明学生の
みえ方

戸塚区 → 赤ちゃん入っている

160名強 → 個別級

経済格差ひろがっている

保が世帯
2人シフト増

昔からの人、ひっこして来た人

✓ 地域の担い手 → 不足

✓ 明学生のニーズ、地域のニーズ

マッチング
むずかしい

✓ 70代 元気高齢者たち

若者うけてめ
うれる

✓ 44回目 遊山箱

明学生
提案から始まった

関根 伸昭 さん

横浜市みどり環境局 戦略企画課 課長

環境政策 みどり 公園 農業 環境保全

✓ 緑の残る大都市

✓ 緑の10大拠点

水と緑の計画

舞岡 ~~野度地区~~ の中に明学

✓ 保全と活用

市民参加
地域活動

農公園

おたけの
ボランティア

ハズロード
サポーター

水辺
愛護会

✓ GREEN x EXPO 2027

横浜で
開催

田中 真次

名瀬谷戸の会 会長

2016年設立 会員約150名

- ✓ 横浜市有地の里山保全活動
- ✓ 名瀬北特別緑地保全地区 (6.5ha)
- ✓ 運営資金 必要

里山環境教育

2025.11
市の第32回横浜環境
活動賞 市民の部
大賞受賞

つばき
まき
あじさい
みどり

食 歴史・文化
生活と関わること

子どもたち 感動を親へ
ママつながりでのひろがり
会員増↑

ファミリー
里山あそび
PM 16:00

里山
保全 環境教育
産 官 学 民

色も学ぶ
(教室内
里山校外) 学習

基本理念
本物から
学ぶ

ムックンクお
機能・人
が必要

一体化
四年折々のうかた学習メニュー
教職員含め 学年別

サブセッション

とりくみ
あった
継続性
むずかしい
卒業
地域も
かわる
板こぎ
ワグミ

初め教育
原住職
大事
大学生
いそがしい
緑地
コスト
どうする?

じぶつ
興味もつ
ずーから
また
思う価値
あるという
大学の中
にも
ある

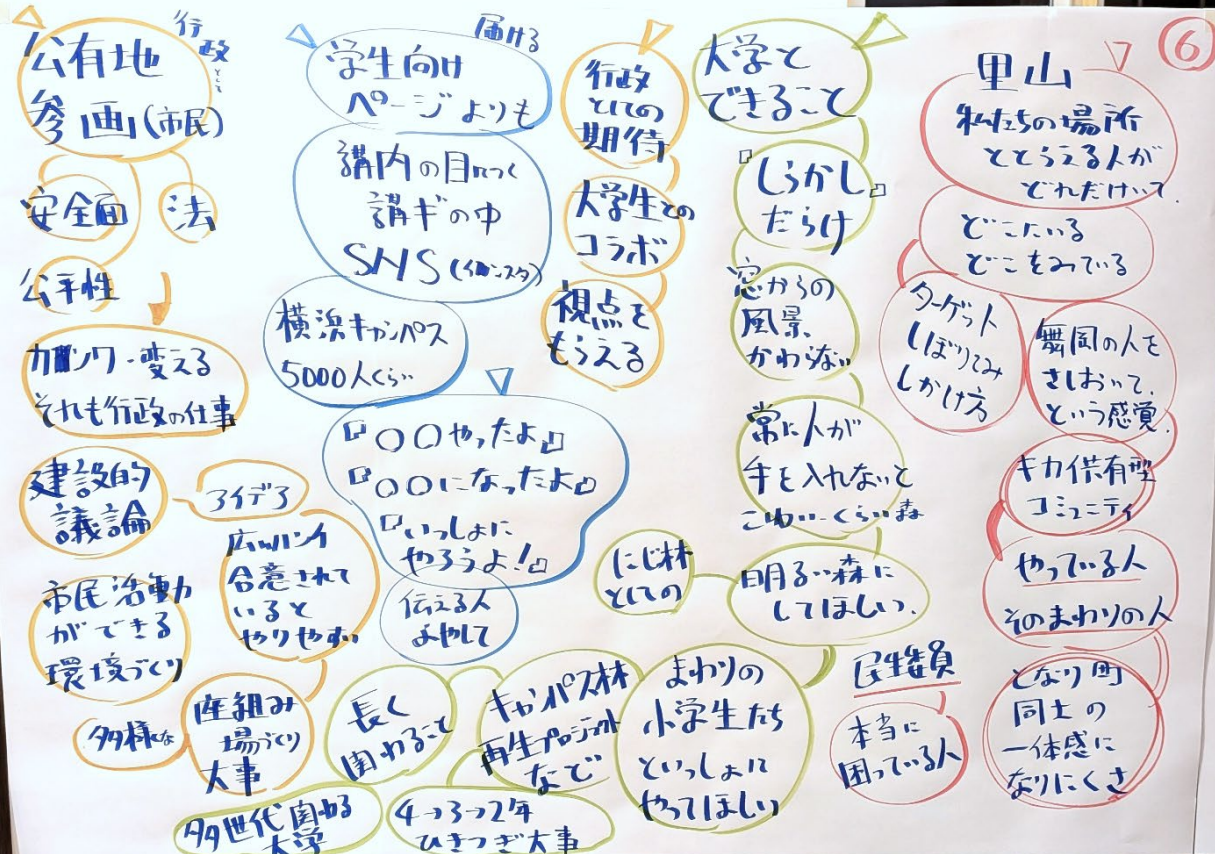
いつも
まっか
どうする?
とそわ
行く
いつ
つながり
つける

公園
夜く
りすの
高い
どうする?
けが
また
活動

大学と
公園
いっしょ
にや
がる

全体像
みえり
な

社会
調査
NPOの
つながり



⑧ 中川 さん

① 大学のキャンパスでやりたい
→ 地域へ出ていくことから

② 地域のかきね
明彦キャンパスのまわりに公園をみえる
大学がハブになれるかも

③ コストがかかっている / 大学の管理

⑨ 林 先生

課題のせいで高まる

① いかに大学を開かれた場にするか

② 市民たちの場にするか、それは開かれてない
でしかない

③ いろいろな人が、ここに意味を見出していく

コストも、今だけではない方向にも

コストはむしろいにもつながるかも

⑩ 手良 さん

⑦

① 大学生がやりたいことを
どう実現していくか

② 私有地

ノウハウつみあげ

教育という里山

福祉的、地域づくりもある

③ いろいろな人が広く関わる座

多様な主体の再定義

もっと広いハブ

■今後のアプローチの方向性

1) 地域に開かれた大学の実践を

横浜キャンパスを活用し、学生に有益な学びを創り出すには、地域住民や自然資源との接点が必要だということが円卓会議で確認できたが、まだまだ舞岡公園の利用や、戸塚地域の住民との対話の場が少ないことも確認された。大学本来の役割である学びに関するソフトの提供（地域学講座など）に加え、ゲートウェイとしてのハード面でのアプローチの可能性も検討すべきではないか。そこで、最初のアクションとしては、大学と地域の対話の場を学内外に設け、地域の方々と接点を作っていくべき。後日の振り返りでも、

1. 地域の野菜が買えるキッチンカーやマルシェをキャンパス内で展開する。
2. 専門家の指導のもとで、学生やボランティアの方々と共同管理できる場所（畑、ビオトープ、ミツバチなど）をキャンパス内に。
3. ただの通過点（経由地）となってしまう戸塚駅にも大学と地域の接点となるサテライトオフィスを構える。

等のアイデアがでている。

更に地域住民や学生の主体性を引き出すためには広場の解放だけを行い、その使い方を自ら企画していくような促し方も低コストで一考の価値がある。（沖縄で行われているパーラー公民館の事例等も紹介された）

2) 学生プロジェクトの継続性について

大学と地域連携を行う際にしばしば課題化されるのは、その事業・企画の継続性である。学生への過度なプレッシャーをかけず、地域への荷重負担にもならないような、お互いの意思確認の場が必要である。継続自体を必須条件にせず、毎年毎年移ろう課題と入れ替わる人材をしっかりと確認しながら連携事業は進めていこう。

3) 舞岡公園等の自然へのアクセスやキャンパス内の自然活用をよりシームレスに

横浜キャンパスの立地は、舞岡公園等里山資源へのゲートウェイとなる。大学と地域、専門家が一体になってマルチセクターでの里山活用プロジェクトの起案を横浜市に対してアプローチすることが expo2027 でも有効な事例となり、大学のプレゼンスアップのチャンスとなるのではないか。キャンパス内の緑の維持にかかっている費用等も机上に上げて、学内全体で議論を進めていくべき。

■参加者によるサブセッション

自然に恵まれた横浜キャンパスを擁する明治学院大学、学生が地域に関りながら、 自然との共生や生物多様性に関する新たな学びを創出できるのか

(参加者記載の原文をそのまま記載している為、事実と異なることがあります。グループ毎に①、②・・・と記載)

①

- ・ 「きっかけ」→「感じる」
- ・ 「価値を見出す」
→自然と近いキャンパスとして知ってもら
う。しっかりと調査する。
- ・ 「きっかけ」をどう繋いでいくか
ex. ゼミのメーリング
- ・ 意外と大したことない「きっかけ」が多い
かも？

②

- ・ 舞岡公園を舞台に社会調査
- ・ 金
- ・ 学生 20 名
- ・ NPO 同士の横のつながり 現在ない！
- ・ @舞岡公園 花咲くクラブ
- ・ →機会共有型コミュニティ
- ・ <全体像の見える化>
- ・ 広域利用 ふるさとの森×舞岡公園
- ・ 植生の違い！
- ・ 人が通らない・薄暗い・車が入れない
→治安面
- ・ ケガ発生等の病院へのアクセス。
- ・ 保育園の子どもたちが迷ったら？(小谷戸の
里まで入れる！)
- ・ そこまで見えてる活動！

③

- ・ ○ふれあい広場で田をかりていて、農業を
行っている。
→収穫祭(ふれあい広場の仲間)40 人←東
屋修繕 官レンケイ
- ・ 悩み軽いよね→里山にはいかないのでは？
↑外国に似ている。
多学は、留学生
- ・ 大学がどう関わっていくかが大事。知の集
積が財産を活かすべき。教授達の受け入れ
が大事!!
- ・ 学生ボランティア増加・自然がいい。ここ
にいと楽しい
声かけ・名前で、居ごちのよい雰囲気が大
切
- ・ 縁が今はない 工夫がいる 業には入りに
くい
ニーズのマッチング「何をしたいか。」
信頼関係が築けるか

④

- ・ 意義、横浜キャンパスに通う
- ・ <理想>
- ・ キャンパス内に畑がある
- ・ “たむろ”する場所がある
- ・ 日常的に利用できるお店←地域の人々も来
て利用できる
- ・ (？) 自然を傷付ける可能性はないのか？
荒らしとか
- ・ 【人の継続性難しい
“核となる枠組み”が必要】

⑤

- ・ この話し合いは、持続するのか?
→一回ぽっきりじゃ意味がない。
- ・ 継続には、金がかかるが、その維持はどうするのか
→サッカースタジアムの例(その金はどうするのか?)
- ・ ボランティアには金がかかるが、市は運営資金をくれない←企業にお金を出してもらおう
(環境こうけん、地域こうけんを念頭においている所が多い)
- ・ 複数の企業からお金をもらっている
←市を頼ってはだめ
- ・ ささやかな有償ボランティアの存在が必要
←高額な報酬は責任が伴うから
- ・ 企業の CSR があるため飛び込みでも資金を集めることができる
←特に外資系が積極的

⑥

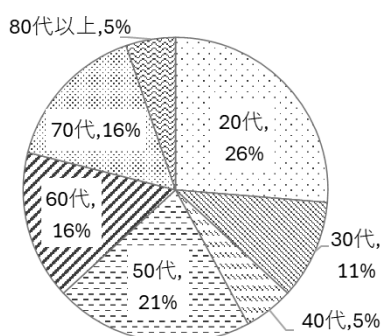
- ・ 地域とのつながりは過去にもあったが
「継続」が難しい
→太いパイプになりづらい(一過性)
→人(学生)も変わっていく
⇒核となる人、枠組み
- ・ 子供時代の経験が大事
→経験で変わる、成長する。
一生をつらぬくもの
- ・ 大学生はこのキャンパスに求めている?
→大学生はない
- ・ 大学生 →やらなくてはいけない事が沢山ある 忙しい
→もう少し先(の年齢?)
でも原点は初等教育にある 原体験
→農林、森に興味、関心が深い学生はいる
(全てではない)
=里山:学生とのつながり?
- ・ コスト 緑地管理にどのくらい費用がかかるのか...
- ・ Ycampus 年間 3 千万円
- ・ コストがかかるからこそ学生とつなげたい

大学と地域連携を考える地域円卓会議 参加者アンケート集計

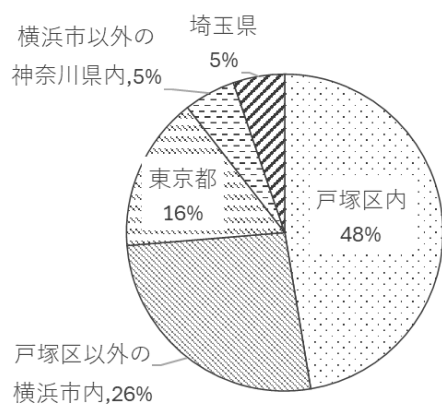
◆概要

- ・日 時：2025 年 11 月 29 日（土）14:00 - 17:00
- ・場 所：明治学院大学 横浜キャンパス 5 号館
クララ・ラウンジ
- ・着席者：8 名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：26 名（自営業・会社員・教職員等）
（アンケート回収 19 名、回収率 73%）

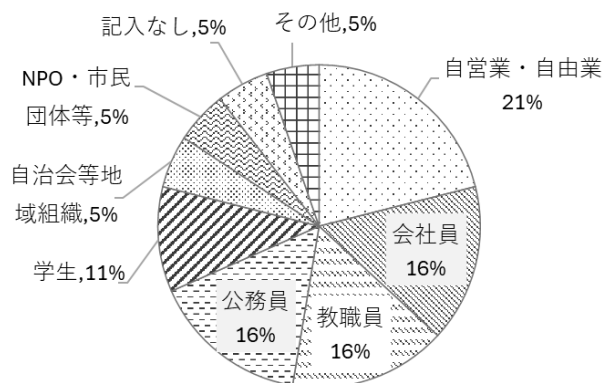
1. 年代



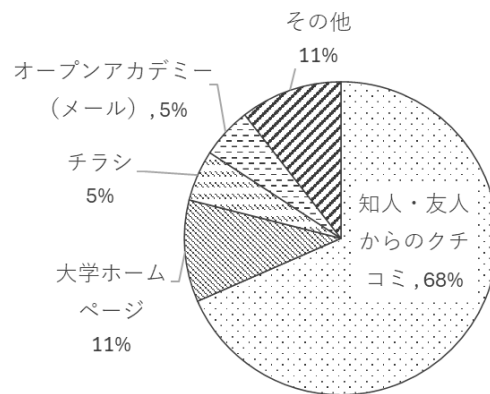
2. どちらから？



3. 職業



4. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度

平均：4.3（5 点中）

5. 満足	4. 概ね満足	3. 普通	2. あまり満足していない	1. 不足	未記入
7 名	10 名	0 名	1 名	0 名	1 名

6. 満足度の理由

（5. 満足）

- ・ キャンパスに日本みつばちの箱をおいてほしいという話を思っているんですよと言ったら「虹の家に置きますか」とオファーを頂きました。
- ・ 色々な意見が聞けて楽しかった。
- ・ いろんな立場の意見を聞けて勉強になった。
- ・ 多様な視点からの多様な意見や考えを聞くことができた。

（4. 概ね満足）

- ・ 横浜校舎周辺の方々が地域で様々なとりくみをされていることが勉強になりました。
- ・ 地域や課題をいろいろな観点で見ることで、それが結びついていくことに面白みを感じたから。

- ・ もう少しお話し合いの場が欲しかった。
- ・ 新たな気付があった。
- ・ まず、学生が学内でコミュニケーションをとるように促す。また、イベント紹介をして、やる気のある学生の参加を促す。
- ・ 他の立場での考えや思いが聞けて良かったです。もっとたくさんの方々の意見交換や現実的な方法などが考えられるようになると良かったです。
- ・ ①円卓会議一素晴らしい。今後も続けてください。(沖縄、問題多すぎて大変?)
②戸塚で自然論議はぜいたく。問題にならない。
- ・ 当初のプロジェクタ画面が不明瞭だった。でも全体の話はそれぞれ具体的でわかりやすかった。全体のタイムテーブルがルーズだった。

(2. あまり満足していない)

- ・ もう少し大学と地域連携について、戸塚の展望もふくめて語ることができればよかったと思います。

7. 円卓会議で印象に残ったこと

- ・ 地域で学ぶ、地域から学ぶ、地域と学ぶ
みつばちに関わりたい学生がいれば、いつでも受け入れます！
田中さんがおっしゃっていた「本物から学ぶ」は小学生のみにとどまらない話だと思いました。
- ・ 戸塚という地域を色んな視点から見て、なんか立体的に街が見えてきた気がします。
キーワード きっかけ、入り口・横のつながり・感動、原体験・継続性の問題・見える化
- ・ 薩摩さんのご意見は大変ありがたかったです。公園に持ち帰って議論できればと思います。
- ・ 地域の民間企業ももう少し入ってもよい感じはしました。

- ・ 地域の連携は地域の課題の解決を中心にやるのがよいと思う。地域の課題のとらえ方に経験が必要と思う。お互いの役割期待を調整できるコーディネーター役が必要です。
- ・ 久々に横浜キャンパスを訪れ、緑の豊かさ、学生、地域の方の活気を感じ、良い機会になりました。ありがとうございました。
- ・ 公開講座には数回出席しています。今回の講座は、継続が必要と思っています。今回で終わりでしょうか？
- ・ 薩摩さんのお話です。
もう少し、対話のお時間が長いと良かったかなと思いました。
- ・ まず、学生が学内でコミュニケーションをとるように促す。またイベント紹介をして、やる気のある学生の参加を促す。
→コミュニケーションを通して学生の学びに対する気付きと変容を促して、やる気を創出させる。
→コミュニケーションの中身に本物が必要だと思います。地域からの発信、それは田中さんなみ。学生は、その本物を学生間で伝え、地域のイベントに参加する。
→本物による変化と、就職や障害への影響を気づかせる。
- ・ 地域の担い手不足や困りごとはたくさんあるけれど、学生たちが入り込むことによって地域活性化にもつながるのは間違いない。その中で今後どうオープンに両者がなって、マッチングさせていくかがとても課題とも感じる。地域からではなかなか発信しにくいので、大学の教授が興味を持って、積極性を出していくことがキーポイントかなとも感じた。授業の一環であれば、学生も新たな気づきになるのではないかなと思う。
- ・ 田中さんが取り組まれていること、特に色々な障がいに対してそれをどのように越えていくかという視点で行動されていることが素晴らしいです。

- ・ 上倉田の私有地の件、実際行ってみたいと思った。ボラセンの畑、土地が足りていないので。
- ・ 核となる人、核となる枠組どうあるか、どのくらいの熱量をもっているかというのは、やはり非常に大きいと感じた。
その上で、人も枠組も時の流れとともに変わるということを踏まえて、どう継続していくか、どう周囲を巻き込んで一体感を出していくか……。決定打も正解も結局はなく、考え続けできることをやっていくしかないのかな……。とも思えた。コスト感覚も見逃せない。
- ・ 都市部としては問題（薩摩藤太）一貧困の格差。セイフティネットの充実、特別教室が増える。→ 課題としてとらえて改善していく里山保全活動、いいね。がんばれ～。問題なし。
- ・ Do For Others の実践としての明学の活動に感謝しています。戸塚駅周辺のサテライトキャンパスとして善了寺を使ってください。いつでもお待ちしております。
グリーン×エキスポ 2027 の成功は明学の先生、学生諸君にかかっていると思います。
- ・ 学生のいろいろなアイデアがよかった。
地域のつながりをもっと持つ機会ができればよいと思った。
たくさんのいろんな立場の人の意見が聞けて、とても参考になった。

(写真) 会場の様子



「きっかけ」→「感じる」
「価値を見出す」
↳ 自然と近いキャンパスとして知ってもらう。
しっかりと調査する。
「きっかけ」をどう繋いでいくか
ex. 緑ゼミのメール
意外に付いたことない「きっかけ」
が9月11日も？

舞岡公園を舞台に社会調査
学生20名
全
・ NPO同士の横のつながり「見えない」
①舞岡公園 ↳ 機会共有型コミュニティ
花咲くクラブ ↳ 全体的な見える化
・ 広域利用 ↳ ふるさと森 × 舞岡公園
・ 植生の違い！
・ 人が通うない・薄暗い・車が入らない
→ 治安面
・ ケガ発生時の病院へのアクセス。→
・ 保育園の子どもたちが迷った？（小谷戸の奥まで入る！）
そこまで見えてる活動！

○ ふれあい広場で田をかりていて、農業と行っている
→ 集わ祭（ふれあい広場の仲間）
40人 ← 東屋修繕
官レック。
○ 小谷戸が軽く上ね。→ 里山にはいかないの？
↑ 外国に1人いる。
留学は、留学生。
○ 大学がどう関わっていくかが大事。知の集積が
財産を預かすべき。教授達へ受け入れが大事！

④ 学生ボランティア増加。自然がいい。ここにいると楽しい
あかけ。名前で。居どちのふん 零田気が大切。

⑤ 縁が今はない。工夫がいる。業には入りにくい
ニーズのマッチング。「何をしたいか。」
信頼関係が築けるか。

・ 意義、施設をパスに通う。
〈理想〉

- キャンパス内に畑がある
- 「たむろ」する場所がある。

○ 日常的に利用できるお店。 ← 地域の人々も
来て、利用できる。

〔人の継続性難しい
「核となる仕組みが必要」〕

(?) 自然を傷付ける
可能性はないのか?
荒らしとか。

・この話し合いは、続するのか？

→ 一回(一回)じゃ足りない。
金

・組織には、金(カネ)があるが、その維持はどうするのか？

→ サッカースタジアムの例。(その金どうするのか？)

・ボランティアは金(カネ)があるが、市は運営資金と

しない ← 企業にお金を出してもらう。

(環境負荷低減、地域貢献)

・複数の企業より、お金をもらっている。
を念頭に置いていっている所がある。

← 市と頼るのはいい。

・土地の存在、ボランティアの存在が必要。

→ 高額の報酬は責任に伴うから。
組

・企業のCSRで、お金の流れは、
資金集めの仕組み。

← 物に外資系が積極的

い地域のつながりは過去にもあった。

「組織」が難しい

い太いパイプになるが、(一過性)

い人(学生)を動かしていく

⇒ 核となる人、枠組み

い子供時代の経験が大事

い経験で変わる。成長期
一生を過ごすその

大学生は、このキャンパスに

求めている？ → 大学生時代に

大学生 → やる気、やる事、
沢山ある。世間

→ もう少し先(年齢?)

↑
でも原点は初等教育にある

(原体験)

農、林、森に興味、肉心が
深い学生はいる(全てではない)

里山: 学生とのつながり?

コスト: 緑地管理にどれくらい費用が
かかるのか...

Ycampus 年約3千万円
かかるといわれている。